

2019年度 学校関係者評価報告書

学校法人仙台北学園
仙台リハビリテーション専門学校

2019年度 学校関係者評価報告書

仙台リハビリテーション専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会は「2019年度 自己評価報告書」に基づいて学校関係者評価を行いました。その結果を以下の通り報告いたします。

1. 開催日時、場所

日時：2019年3月14日（土）16：30～18：30

場所：TKP 仙台西口ビジネスセンター 6F ミティングルーム 6A

2. 出席委員

学校関係者評価委員会（委員数5名、出席委員5名）

- ・渡辺好孝（宮城県理学療法士会 会長）
- ・大内義隆（宮城県作業療法士会 副会長）
- ・大貫操（宮城県作業療法士会 副会長）
- ・阿部順（宮城県立がんセンター 理学療法士）
- ・谷口英太郎（らそうむ内科・リハビリテーション 院長）

教職員

- ・渡辺信英（学校長）、小畑陽平（理学療法学科 学科長）、
櫻井直人（作業療法学科 学科長）、根本峰人（事務長）、
吉田望（理学療法学科 教員）、高村真司（理学療法学科 教員）、
金澤聡（作業療法学科 教員）、小松原靖子（作業療法学科 教員）、
大本研二（理事長）、遠藤典雄（理事）

3. 次第

- 1) 開始の挨拶
- 2) 委員紹介（自己紹介形式）
- 3) 2019年度自己評価の報告／意見交換
- 4) 終了の挨拶、解散

1. 学校の教育目標

■教育理念

○本学における教育の基本理念

本学園における教育は、命の尊厳と豊かな人間性を基本とする。これに基づき、新たな時代が求める専門的な知識と技術と意思の修得を進めるとともに、地域社会において医療・福祉・健康の分野で活躍し得る職業人を育成する。

○アドミッションポリシー

本学園の理念を理解すると共に、本学園で学ぼうとする意欲に溢れ、本学園で資格を取得したいと強く望む人の入学を期待すべく、競合校のどこよりも早期に、その意思確認ができる人、言わば目的意識を高くもつ人を希望する。

○教育方針

本学では、基本理念に則り、学生が自ら以下のことがらを達成できるよう、教職員全員が協力して支援することを教育方針とします。

(1) 専門職として最低限必要なことがらを修得する

医療分野における専門職として必要とされる、基本的な知識・的確な技術・人間としての態度をバランス良く修得する。

(2) 社会的に自立する

社会人としてそれぞれの目標を持って自立し、自己の意見・判断をしっかりと持ちながらも、他人を思いやり周囲と協調して行動できる。

(3) 地域との連携ができる

教育・研究・奉仕活動を通じて地域社会に貢献するとともに、複雑化する情報化社会にも適切に対応して地域社会との交流と連携ができる。

(4) 国際的な視野を持つ

国際的な視野を持って活躍でき、世界中の人々と積極的にコミュニケーションがとれる。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

以下の重点目標をP D C Aサイクルで行う。

1. 学校

①教職員が意欲的に働ける環境の整備 ②学生の学習環境を整備

2. 教員

①自己の教授能力の向上のためFDに参加、企業等との教育連携

②学生支援のための学生との効果的なコミュニケーションをとる

③学生の国家資格取得のための知識・技術の指導は当然であるが精神的支えになるための能力を向上させる

3. 学生

①学生の目標を教職員一体となって実現させる。

②学生一人ひとりの個性を尊重して支援する。さらに、個に応じた学びの支援を徹底する。

③社会人に向かう学生の能力を向上させる。

④学問重視型（教育の講義など知識伝達型）と問題解決型（能動的学習・アクティブ・ラーニング）の調和

2019年度 学校関係者評価報告書

評価期間：2019年4月1日より2020年3月31日まで

評価：A…優れている B…標準的である C…今後の課題とする D…改善を要する

※全ての評価項目が本学に該当するものである。

①教育理念・目標		評価	
評価項目	1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。	A
	2	学校における職業教育その他の教育指導等の特色はあるか。	A
	3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	A
	4	上1～3は学生・保護者に周知させているか。	B
	5	上1は業界のニーズに合致し、方向付けられた内容か。	A
現状	1	理念・目的・育成人材像を定め、常に学生・教職員に意識させている。	
	2	定期的に業界団体、関連業種の特別講演を実施している。合わせて意見交換や学生への教育指導も実施している。	
	3	地域社会から人材を渴望されている学科構成である。今後も社会経済のニーズに注視し将来構想を検討する。	
	4	学生・保護者には学生便覧によりこれらの周知を図っている。また、ホームページへの公開もしている。	
	5	アドミッション・カリキュラム・ディプロマの3ポリシーを明文化し、学校としての考え、学科としての考えをさらに明確にした。	
課題と改善策	変動する社会経済ニーズを的確に捉える必要がある。特別講演や意見交換だけでなく、関連施設、業界の視察や情報交換会の実施を検討する。また、専門科目は当然であるが教養科目の質的充実、さらに汎用的スキルを取り入れ理念・目的に合う人材の養成に取り組みたい。		

■学校関係者委員会による評価

資格取得目標は必然であるが、現場で活躍できるプロフェッショナル教育を実施して欲しい。また、PDCAサイクルでの見直しを実践するべきである。

②学校運営		評価	
評価項目	1	目的に沿った運営方針が策定されているか。	A
	2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	A
	3	運営方針は教職員への周知徹底はなされているか。	A
	4	運営組織や意思決定機能は、規程等により明確化され、有効に機能しているか。	A
	5	人事・給与に関する規程等は整備されているか。	B
	6	教務・財務等の意思決定システムは整備されているか。	A
	7	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	B
	8	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	B
	9	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	A
現状	1	地域社会・地域医療・地域福祉に貢献しうる有能な人材養成の目的の実現に向け学校運営を行っている。	
	2	毎年事業計画は策定されている。また、年度末には事業報告書として報告している。	
	3	定期的に教職員会議を実施し周知されている。また、理事会や運営会議などの情報提供も学内に周知されている。	
	4	理事会で審議・議決された短・中・長期の事業計画・運営方針に基づき、役職者等で構成させる運営会議でさらに具体的に審議、全体会議で意思決定している。	
	5	人事の採用、昇進・給与等の就業規則は整備されている。また、規程等は教職員に周知されている。	
	6	役員、教職員で定期的に会議を実施し、意思決定及び周知をしている。また、稟議書等により適切に運営している。	

	7	関係法令の順守、社会規範の遵守を教職員に適時適切に指示・訓示を図り、学生にも周知させるよう努めている。
	8	ホームページで適時公開している。また、附帯事業についても公開している。
	9	広報、学生管理システムを導入し業務の効率化を図っている。
課題と改善策	附帯事業を含む教育活動の公開情報の充実化を図る必要がある。地域社会や業界に対しても本学園の活動が伝わるように広く情報公開に努めていく。また、学校運営に関しては教育理念に従いPDCAサイクルにより実施していく。	

■学校関係者委員会による評価

T V C Mが好評なので、放映期間についても検討するべきである。B評価をA評価にするためには地域社会へのPRが必要だと考える。

③教育活動		評価	
評価項目	1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	A
	2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に応じた教育到達レベルや学習時間の確保はされているか。	A
	3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	A
	4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか。	A
	5	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	B
	6	関係分野における実践的な職業教育（実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	A
	7	授業評価の実施・評価体制はあるか。	A
	8	職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	B
	9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	A
	10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	A
	11	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	A
	12	関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保する等マネジメントが行われているか。	A
	13	関連分野における先端的な知識・技術を修得するための研修や教員の指導力育成等の資質向上のための取組が行われているか。	A
	14	職員の能力開発のための研修等が行われているか。	A
現状	1	教育の基本理念と教育方針は策定されており、毎年、PDCAサイクルにおいて検討、改善を実施している。	
	2	指定規則で定められた時間以外にも教育指導を実施している。	
	3	各学科とも教養科目・専門科目・実技・実習など順次的・体系的にも編成されている。	
	4	実習指導者会議や実習地訪問で得た現場の意見を、適宜、教育活動に活用している。	
	5	業界団体に非常勤講師を依頼し、より具体的な教育を実施している。	
	6	職業教育は、各学科のカリキュラムの中で体系的に位置づけられている。	
	7	学生による授業評価は全ての科目で実施している。	
	8	第三者評価委員にて外部有識者からの意見を取り入れている。	
	9	成績評価・単位認定・進級・卒業判定等の基準は学則に定められている。	
	10	資格取得の指導体制がカリキュラムに体系化されている。	

	11	教員は、学歴・専門職としての経験、講義の能力等が優れた者、さらに実習施設との連携により現場経験の豊富な者を確保している。
	12	各協会、コンソーシアム活動に積極的に参加し、様々な連携によりマネジメントが図られている。
	13	業務として各種講習会等に参加している。また、定期的に現場研修を行い資質向上に努めている。
	14	各協会、コンソーシアムに参加し、教職員間の情報交換やセミナーへの参加を推奨している。
課題と改善策	業界団体や臨床の先生を非常勤講師として招いているが、より外部との連携強化が必要と考えられる。非常勤講師として教育参画だけではなく、定期的な意見交換を検討する。また、コースナンバリング、履修系統図（カリキュラムマップ）の作成を検討する。引き続き教員の資質向上に努める。	

■学校関係者委員会による評価

臨床実習等臨床に係る教育は職業現場を積極的に活用し、基礎知識については内部教育を実施していることは良いと言える。職業現場／実習指導や非常勤講師への学園の教育理解を得るために、指導者会議の他に非常勤講師会を実施した方が良い。

④学修成果			評価
評価項目	1	進学率や就職率の向上が図られているか。	B
	2	資格取得率の向上が図られているか。	A
	3	退学率の低減が図られているか。	B
	4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	A
	5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	A
現状	1	就職指導としては、関連業界の方や臨床の先生を招き特別講演を実施している。また、臨床実習の際には就職も意識した事前指導を実施している。	
	2	学内では国家試験全員合格をめざし、学習教材、校内・全国模擬試験などを含め様々な対策を講じて国家試験合格率のアップにもつながっている。対策は、グループ学習を中心に様々な取り組みを行っているが、特に成績下位者に対しては、個別指導など集中的に取り組んでいる。外部取組として全国リハビリテーション教育協会に参加し、参加校同士で意見交換を実施し、国家試験対策に役立っている。また、入学前教育（スクーリング5回）の実施や初年次教育に力を入れ低学年より教育指導の充実化を図っている。	
	3	定期的な学生面談・相談を実施している。	
	4	社会的な活躍及び評価の把握だけではなく、学園主催で卒業教育の一環として定期的に技能実習会などを開催し、資質向上に努めている。技能実習会には在校生も参加している。	
	5	技能実習会だけではなく、実習地訪問や各職能団体での会合等での意見交換や現状把握をし、教育活動の改善に役立っている。	
課題と改善策	退学率の低減が大きな課題であり、多様化する学生個人のメンタル的な部分も含め関わり方を検討、改善する。また、講義や定期的な面談だけではそれ以外の活動でも学生との関わりを強くしていく。		

■学校関係者委員会による評価

退学率に関しては分析に必要な数値根拠を明確にし、学校関係者評価委員会でも改善方法について検討する。

⑤学生支援			評価
評価項目	1	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	A
	2	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	A
	3	課外活動に対する支援体制は整備されているか。	A
	4	学生の生活環境への支援は行われているか。	A

	5	保護者と適切に連携しているか。	B
	6	卒業生への支援体制はあるか。	A
	7	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	A
	8	専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	A
現状	1	公的補助金や各種就学資金制度や奨学金制度などの案内を入学前より実施している。高等教育段階の教育費負担軽減新制度の対象校となっている。	
	2	毎年、学園で健康診断を実施している。	
	3	必要に応じて学生主体のボランティアや教育付帯活動に予算補助や教職員が同行している。	
	4	学生主体で在校生交流会を毎年実施している。また、入学年度には海洋リハビリテーション研修（3泊4日）を実施している。	
	5	入学前教育（2回）や入学後に保護者会（1回）を実施している、	
	6	学園主催で卒業教育の一環として定期的に技能実習会などを開催している。	
	7	入学者の社会人割合が多い時で3割弱であり、社会人のニーズを含めた教育環境は整備されている。	
	8	全国リハビリテーション教育協会や全国専門学校コンソーシアムの活動に積極的に参加し、キャリア教育・職業教育に活かしている。	
課題と改善策	保護者会が入学前教育で2回実施しているのに対して、入学後は1回のみである。必要とされる場合は随時保護者面談を実施しているが、定期的に保護者全体への情報提供や協力をお願いする会を検討する。引き続き卒業教育については、実施・充実化を図る。		

■学校関係者委員会による評価

時代背景もあるため保護者に対する協力要請を強くするべきである。学生には成績などの分析以外にも、将来像や卒業後のイメージなど学生の期待感、興味、関心を強く抱くようにプラスのイメージを全面にした方がよい。

⑥教育環境			評価
評価項目	1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	A
	2	学内外の実習施設、海外研修先について十分な教育体制を整備しているか。	A
	3	防災に対する耐性は整備されているか。	B
現状	1	必要に応じて指定規則以外の教育備品も充実化を進めている。	
	2	各臨床実習に対しては十分な教育体制を整備している。また、海洋リハビリテーション研修を実施している。	
	3	防災訓練を年1回実施している。	
課題と改善策	防災マニュアルの見直し及び備蓄品の整備に課題がある。緊急時の衛生用品や非常飲食品などの整備を早急に進める。		

■学校関係者委員会による評価

防災訓練だけではなく、日頃からの公衆衛生や防災対策に対する意識づけをしていく。また、防犯に関する準備も充実させる。

⑦学生の受入れ募集			評価
評価項目	1	学生募集活動は適正に行われているか。	A
	2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	A
	3	学納金は妥当な額か。	A
現状	1	毎年、定員を充足する活動を実施している。	

	2	国家試験合格率などの教育成果はオープンキャンパスや学校説明会などで説明している。
	3	入学制度に合わせた減免制度を実施している。
課題と改善策	入試制度の見直しを毎年実施している。近年は指定校の指定を受けたいとの高等学校からの問合せが多く、次年度に向けて検討を進めている。	

■学校関係者委員会による評価

大学や他専門学校との差別化を明確にする。海外では作業療法士の評価は高い。将来のA Iの発達を見据えて、社会人やキャリアチェンジのPRも実施すべきである。

⑧財務			評価
評価項目	1	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。	B
	2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	A
	3	財務について会計監査が適正に行われているか。	A
	4	財務情報公開の体制整備はできているか。	B
現状	1	理事会。運営会議において中長期的な教育目標と事業計画を行い、予算、収支計画との適合性も図っている。	
	2	予算の編成も中長期的に行い財務基盤は安定している。	
	3	私立学校法及び寄付行為に基づき適正に監査を行っている。	
	4	学園ホームページにて財務情報を公開している。	
課題と改善策	今年度より財務情報の公開は実施しているが、今後は必要に応じて他の関連情報の公開も検討している。		

■学校関係者委員会による評価

学校は単年度の入学生数によって財務状況が変わり中長期的な財務予想は難しい。ここ数年は入学者数の安定化ができており、今後は教育附帯事業や収益事業についても検討する必要がある。

⑨法令の遵守			評価
評価項目	1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	A
	2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	A
	3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	A
	4	自己評価結果を公開しているか。	B
現状	1	学校教育法、専修学校設置基準法およびその関連法令、就業規則、学則などを遵守し、法律・規則等に基づいた学校運営を行っている。	
	2	個人情報保護は規定に基づき適切に行っている。	
	3	自己評価を定期的実施し、PDCAサイクルに合わせた確認と改善に努めている。	
	4	本年度より公開する。	
課題と改善策	情報公開のニーズに合わせて自己評価だけではなく、第三者評価の公開もする。		

■学校関係者委員会による評価

自己評価、学校関係者評価は今年度からの実施であるため速やかに公表する。公表するだけでなく、PDCAサイクルに合わせ実行していくことが大切である。

⑩社会貢献・地域貢献			評価
評価項目	1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	A
	2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	A
	3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練含む）の受託等を積極的に実施しているか。	A

現状	1	施設、設備の関連団体や地域住民のコミュニティへ貸出以外にも教職員、学生の人的協力をしている。
	2	教職員も参加して復興マラソンや車イステニス、福祉施設などへのボランティア活動をしている。
	3	近隣の小学校での教職員による授業や地域住民を対象とした健康教室の開催をしている。
課題と改善策	今年度より文化祭に仙台ユネスコ協会が参加している。今後も様々な活動で貢献を検討している。近隣の小学校や地域住民から文化祭を日曜日に開催して欲しいとの要望があり現在調整中である。	

■学校関係者委員会による評価

地域活動は活発に実施している。今後は地域からの協力依頼だけではなく、学園から発信・参加することも重要である。また、参加者へのアンケートを実施する。

①国際交流			評価
評価項目	1	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか。	B
	2	受け入れ・派遣について適切な手続きが取れる体制が整備されているか。	B
現状	1	留学生関連のコンソーシアムに参加している。	
	2	受け入れ体制を適時進めている。	
課題と改善策	医療系の国家試験取得が目的であるため、教育を受ける前提の日本語や社会生活などの基礎知識の習得方法についても検討を進めている。		

■学校関係者委員会による評価

留学生は社会背景もあり介護福祉士など活躍の場が広がっている。理学療法士、作業療法士は医療用語、専門用語など言語理解がまず必要となる。